

様式 1

本事業の自走化計画

① 自走化の実現に向けた取組内容【2 ページ以内】

1. 学内予算への内在化（中長期計画への反映による財源の確保）

SGU 大学として採択された 2014 年度において、国際部が所管する国際化推進のための事業経費は 5 億 2 千 2 百万であった。その後、本学の構想調書に基づき、SGU で定められた各指標の目標値達成に向けた取り組みを推進するに従い事業経費は拡大し、2019 年度では 10 億 3 千 2 百万円と約 2 倍になっている。特に、海外へ留学する学生に対する奨学金や学生の英語力強化への取り組み（一部収入が発生）など、補助金の対象外となる事業への予算化が大きい。今後も毎年一定の割合で SGU の補助金は削減されることが予定されているが、2020 年度から 2023 年度に向けた本学の国際化推進のための事業経費は補助金と自己財源を用いて 9 億数千万円の規模を維持していく予定であり、本学においては計画遂行に向け十分な学内予算を投入していく。補助金終了後も、その分を補填して計画を継続する自走化の財政的準備ができています。

株式会社日本格付研究所（JCR）による 2019 年 1 月 10 日付の本学の長期発行体格付は AA であり、格付の見通しは安定的と評価されている。格付事由として、(1) 留学生の受け入れを始め教育・研究の国際化も強力に推進している。(2) 志願者動向は好調で、学生獲得力は強い。入学定員を厳格に管理する一方で、過年度の定員増などの効果により、一定の学納金収入を確保できる見通しである。支出管理も適切で、比較的余裕のある収支状況を保てると想定される。また、財務基盤は強固である。(3) 18 年度入試の延べ志願者数は 11 万人を超え過去最高を更新し、実志願者数も増加傾向にある。キャンパスや教育組織の再編、国際化などのスピード感のある取り組みが、受験生や高校教員の支持を集めている。研究の強化や国際化への資源配分も強めている。と評価されており、国際化に配分する予算不足の心配はほぼ無いと言って良い。

2. 寄付金の獲得

募金専門部署の設置

2017 年度、社会連携推進室に募金課が新設され、卒業生や法人等から用途指定型の寄付金募集を開始し、2018 年度には 619 件、1 億円超の寄付があった。募金課では更に多くの寄付金の獲得を目標としている。

3. プログラムフィーの徴収

① ショートプログラムの拡大

本学の協定大学向けのショートプログラムを拡大していく。協定大学のニーズに基づきプログラム内容をカスタマイズし、派遣大学担当者と参加学生両方の満足度を高めることにより参加人数の増加を図っていく。

② フィーベース留学生の受け入れ拡大

交換留学生の他に授業料徴収型の留学生を積極的に受け入れていく。ISEP ダイレクト利用者の拡大、CIS abroad や IES Abroad 全米大学連盟などの団体からの短期留学生の受け入れを推進していく。

4. 大学 100%出資の事業法人からの支援

全世代グローバル教育事業等を主な事業内容とする「東洋大学グローバルサービス株式会社」(TUGS 社) から、2018 年度に 5,000 千円の寄付がなされた。構想調書に掲げた、“Toyo Global Diamonds”構想を発展・継続させるための支援を行うことを企業理念としており、本学の国際化を永続的に推進していくための支援モデルが構築された。今後の目標として、2019 年度に 13,000 千円、2023 年度には 50,000 千円の寄付額が設定されている。

② 取組内容の年度別実施計画【2 ページ以内】
【2019 年度】 ・ 学内予算への内在化の継続 ・ 寄付金獲得の推進 ・ ショートプログラムの拡大 ・ フィーベース留学生の受け入れ拡大
【2020 年度】 ・ 学内予算への内在化の継続 ・ 寄付金獲得の推進 ・ ショートプログラムの拡大 ・ フィーベース留学生の受け入れ拡大
【2021 年度】 ・ 学内予算への内在化の継続 ・ 寄付金獲得の推進 ・ ショートプログラムの拡大 ・ フィーベース留学生の受け入れ拡大
【2022 年度】 ・ 学内予算への内在化の継続 ・ 寄付金獲得の推進 ・ ショートプログラムの拡大 ・ フィーベース留学生の受け入れ拡大
【2023 年度】 ・ 学内予算への内在化の継続 ・ 寄付金獲得の推進 ・ ショートプログラムの拡大 ・ フィーベース留学生の受け入れ拡大
【2024 年度以降】 ・ 学内予算への内在化の継続 ・ 寄付金獲得の推進 ・ ショートプログラムの拡大